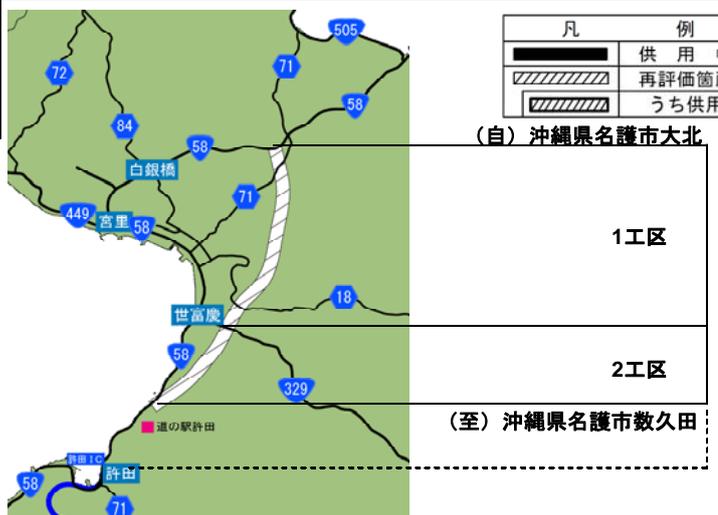


再評価結果（平成19年度事業継続箇所）

担当課：国道・防災課

担当課長名：木村 昌司

事業名 一般国道58号 名護東道路	事業区分 一般国道	事業主体 沖縄総合事務局								
起終点 自：沖縄県名護市大北 至：沖縄県名護市数久田	延長	6.8km								
事業概要 名護東道路は沖縄県名護市大北から同市許田に至る延長L=8.4kmの地域高規格道路である（事業区間6.8km）。 本道路は、高規格幹線道路である沖縄自動車道と、地方拠点都市地域に指定された北部広域市町村圏（12市町村）の中心都市である名護市を結び、那覇空港や那覇港などの広域交流拠点をネットワーク化する事により、北部地域の活性化を支援するとともに、名護市街地の渋滞緩和を図る役割も担う。										
H9年度事業化	H1年度都市計画決定	H11年度用地着手								
H13年度工事着手										
全体事業費	962億円	事業進捗率 19%								
計画交通量	23,900台/日									
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.2 (残事業) 1.7	総費用 (残事業)/ (事業全体) 583.9/848.0 億円 （事業費：557.4/821.6 億円 維持管理費：26.4/ 26.4 億円）								
	総便益 (残事業)/ (事業全体) 989.2/989.2億円 （走行時間短縮便益：906.1/906.1億円 走行費用減少便益：50.8/ 50.8億円 交通事故減少便益：32.3/ 32.3億円）	基準年 平成18年								
事業の効果等 ・国土・地域ネットワークの構築（日常活動圏の中心都市へのアクセス向上） ・物流効率化の支援（農林水産品の流通の利便性が向上） ・個性ある地域の形成（主要観光地へのアクセス向上） 他4項目に該当										
関係する地方公共団体等の意見 沖縄県北部市町村会、沖縄県北部振興会、沖縄県名護東道路整備促進期成会から、北部地域の振興に資する高規格の当該道路整備に対して早期建設要望が11年間に22回、出されている。										
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 美ら海水族館など北部地域を訪れる観光入込客数は多く、増加傾向 ⇒ 観光支援 北部地域で盛んな野菜・果物、花卉は県内シェアが高く、また移出量は近年増加傾向 ⇒ 産業支援 北部地域の高齢者人口割合は約20%と高い割合となっており、地域への医療支援が課題 ⇒ 医療支援 名護市内には渋滞ポイントが残っており、近年は交通量が増加傾向（H11→H17） ⇒ 渋滞対策										
事業の進捗状況、残事業の内容等 用地進捗率 約57%；事業進捗率 完成供用19%、暫定供用33%（平成17年度末現在）										
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 平成23年度末1工区（L=4,200m：名護市大北～名護市世富慶）部分暫定供用										
施設の構造や工法の変更等 世富慶ICの構造見直し（約28億円） 今後の施工に関しても、新技術の活用など、更なるコスト縮減について検討する。										
対応方針 事業継続	 <div style="text-align: right;"> <table border="1" style="font-size: small;"> <tr><td>凡</td><td>例</td></tr> <tr><td>■</td><td>供用中</td></tr> <tr><td>▨</td><td>再評価箇所</td></tr> <tr><td>▩</td><td>うち供用中</td></tr> </table> <p>(自) 沖縄県名護市大北</p> <p>1工区</p> <p>2工区</p> <p>(至) 沖縄県名護市数久田</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; right: 0; top: 50%; transform: translateY(-50%);">整備区間 調査区間</p> </div>		凡	例	■	供用中	▨	再評価箇所	▩	うち供用中
凡			例							
■			供用中							
▨	再評価箇所									
▩	うち供用中									
対応方針決定の理由 以上の状況を勘定すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。										
事業概要図										

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。